

ラクシャー・バンダンを祝って

愛の絆、保護の約束

パルグニー・フリーマン

インドのモンスーンの月であるシュラーヴァナ(グレゴリオ暦では7月と8月に当たる)は、大地が新鮮な雨の香りに包まれる時期です。木々のぬれた葉は差し込む太陽の光に輝き、すべてが豊かに青々としています。この再生の時期の、シュラーヴァナ・プールニマーとして知られる満月の日に、人々は、自分が愛し大切に思うすべての人たちとの絆を新たにして喜ぶ祭り、ラクシャー・バンダンを祝います。

インドでは、ラクシャー・バンダンの朝には素晴らしい興奮が漂います。誰もが伝統的な盛装をし、鮮やかな色のランゴリー¹は愛と情熱を込めて描かれます。皆がお祝いの準備をする中で、お菓子やごちそうの香り、みずみずしい花々のうっとりとする香りが辺りに漂います。インドではラクシャー・バンダンの日に、姉妹が兄弟の手首にラーキー——より糸で作った腕輪——を結ぶのが伝統です。ラーキーは、兄弟姉妹たちの途切れることのない愛の絆の象徴であり、それに応えて保護を授けるのです。

姉妹は、花、ラーキー、兄弟や姉妹のお気に入りのお菓子を使ったアーラティー²・トレイを準備します。兄弟は、床の上のランゴリーが囲む場所に特別に用意されたパートゥ、すなわち木製のスツールに座ります。彼が座ると、姉妹が前に進み出て、兄弟にクムクムでティーカー(眉間に付ける赤い点)を付け、手首にラーキーを結びます。そして彼女は彼にお菓子をささげ、彼はお返しに幾つかを彼女にささげます。(多くの姉妹やそのようないとこを持つ兄弟にと

¹ LINK to glossary: rangoli

² LINK to glossary: arati

って、それは飛び切りたくさんのお菓子の日です！）姉妹は兄弟のために、豊かさ、繁栄、健康に恵まれた人生を祈ります。そして兄弟は、いつでも彼女を保護し、彼女のためにそこにいるという約束の証しとして、姉妹にお金を贈ります。

歴史的に、ラクシャー・バンドンの精神は、家族の範囲を超えても示されてきました。例えば、15 世紀のインドでは、夫を亡くしたラジャスタンのカルナーヴァティ女王が、当時インドの大部分を統治していたムガル人のフマール・ユーン皇帝にラーキーを送り、彼女の王国を守る上での助けを求めたと言われています。この一見普通に見えるより糸に込められた心情に敬意を表し、フマール・ユーン皇帝は、彼女の王国を守るために自分の軍隊を送りました。

長年にわたり、インドの偉大な指導者たちは、人々が結束し、違いを排し、一体となって団結するための呼び掛けとして、ラーキーの交換を奨励してきました。インドでは、その土地の豊かな多様性に寄与する数多くのカースト、教義、宗教、信仰、そして人種があるため、これは重要なことです。

多くの人々は、この保護をささげることと求めることの交換を、自然にも広げています。人々はラーキーを木や茂みやつるなどに結び、人間と自然環境の切り離すことのできないつながりを認めます。インドの偉大な詩人の一人であるラビンドラナート・タゴールは、自然をラーキーと共にこのように称賛しています。

大地の影と光への
私の体と心の中の愛は
長年とどまっている。
その心配と希望と共に
それはそれ独自の言葉を
青い空に投げ掛けてきた。

それは私の喜びと憂いの中に
春の夜のつぼみと花盛りの中に住んでいる
未来の手の上の
ラーキーの腕輪のように。¹

私は、ラーキーを一体性の象徴であると考えます。ラーキーは、全人類はつながっているのだ
ということを出させるものです。ラーキーの色とりどりのより糸が一つのひもに織り込まれる
のと同じく、異なった文化の無数の色も、一体となった全体へと織り込まれることができますので
す。ラクシャー・バンダンとつつましいラーキーは、人類を守る——お互いを、そしてこの貴重な
地球を守る——という私たちの約束を守ることの大切さを思い出させるのです。

シッダ・ヨーガの道では、グルと弟子との間の愛の絆、そしてその愛の絆を織って作られた保
護の毛布をたたえる時として、ラクシャー・バンダンは特別な意味を持ちます。私はこの永遠の
絆を、交差するたくさんの糸によって作られ、強められるものとして考えるのが好きです。弟子
の糸は、約束、受容、信頼、放棄、一点集中、意図を持つこと、献身、そしてグル・バクティ³
を含みます。これらの努力の糸は、グルの恩恵、慈悲、博愛、無条件の愛、そして弟子が自身
の中に最高のものを体験すること——彼らの最大の可能性を体験し、彼ら自身の大いなる自
己の気づきに没頭する人生を生きること——を願うグルの糸とより合わさります。弟子がサー
ダナー⁴を行い、シッダ・ヨーガの教えと修行に積極的に取り組む時、グルとの力強く永続的な
絆が織り込まれ、強化されるのです。

グルの愛は、弟子が自由への道へと、グルが彼らを導くゴールへと進む上で、最善を尽くすよ
う励まします。グルの保護は、サーダカが道を進むあらゆる段階において、彼らの最大の支え
です。弟子としてのあなたはこれまでに何度、あなたのビジョンと理解を実際に導き、支え、変

³ LINK to glossary: bhakti

⁴ LINK to glossary: sadhana

容させるグルの存在を内側で体験しましたか。この存在、私たちの中に宿るこの「グルの原理」を、私たちはどのように守りますか。私たちが保護をささげることのできる一つの方法は、私たちの思考の純粹性と品位について、何を私たちのマインドと心に受け入れるかについて、私たちが話す言葉について、注意深くいることです。そうすることで、私たちは私たちの中に生きているグルの存在を守るのです。

私たちが保護をささげるもう一つの方法は、シッダ・ヨーガの道の遺産を守ることです。私たちはこれを、お互いや家族と、あるいは子どもたちと、シッダ・ヨーガの教えに生きることの体験を分かち合うことによって、私たちの人生におけるグルマリーの恩恵と導きの変容の力について分かち合うことによって、行うことができます。そして、心を開かせるダクシナーの修行を通してシッダ・ヨーガの道への専心を強めることによって、行うことができます。

ラクシャー・バンダンを祝う中で、私たちはこの祝祭日の心情を数え切れない方法でたたえることができます。私は、あなたが前進し、あなたの心の愛を惜しみなく分かち合うたびに、あなたはラーキー結んでいると思うのが好きです。あなたが誰かに注意深く耳を傾けるたびに、あなたはラーキーを結んでいます。あなたがグルマリーへの愛とつながるたびに、シッダ・ヨーガの道を歩んでいる体験を分かち合うたびに、シッダ・ヨーガのサーダナーから得た英知を行動に移すたびに、あなたはあなたの人生で出会う人々にラーキーを結んでいます。一言で言えば、あなたがシッダ・ヨーガの教えを生きるたびに、あなたはラーキーを結んでいるのです。



© 2022 SYDA Foundation. 著作権所有。

¹ Rabindranath Tagore, *The Jewel That Is Best: Collected Brief Poems*, Trans. William Radice (New Delhi: Penguin, 2011) p.118.